

令和2年度

試 験 曲

音楽学部個別学力検査等

<一般入試>

<推薦入試>



沖縄県立芸術大学

OKINAWA PREFECTURAL UNIVERSITY OF ARTS

目 次

音楽学部アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー	1
募集人員	2
I 一般入試	
1 試験科目一覧	3
2 出願方法	3
3 併願について	4
4 試験内容及び試験曲等	
《専攻試験》	
(1) 音楽表現専攻声楽コース	5
(2) 音楽表現専攻ピアノコース	6
(3) 音楽表現専攻弦楽コース	7
(4) 音楽表現専攻管打楽コース	9
(5) 音楽表現専攻作曲理論コース	13
(6) 音楽文化専攻沖縄文化コース	14
(7) 音楽文化専攻音楽学コース	14
(8) 琉球芸能専攻琉球古典音楽コース	15
(9) 琉球芸能専攻琉球舞踊組踊コース	15
(10) 社会人入試（琉球芸能専攻）	15
《音楽に関する基礎能力検査》	
(1) 楽典	16
(2) 聴音	16
(3) 新曲視唱	16
(4) 副科ピアノ	16
(5) 初見視奏	16
(6) 音楽又は舞踊の実技	16
(7) 初見視唱	17
5 令和2年度個別学力検査等日程表	17
II 推薦入試	
1 試験科目一覧	19
2 出願方法	19
3 試験内容及び試験曲等	
《専攻試験》	
(1) 音楽表現専攻声楽コース	20
(2) 音楽表現専攻ピアノコース	20
(3) 音楽表現専攻弦楽コース	20
(4) 音楽表現専攻管打楽コース	20
(5) 音楽表現専攻作曲理論コース	21
(6) 音楽文化専攻沖縄文化コース	21
(7) 音楽文化専攻音楽学コース	21
(8) 琉球芸能専攻琉球古典音楽コース	21
(9) 琉球芸能専攻琉球舞踊組踊コース	21
《音楽に関する基礎能力検査》	
(1) 楽典	22
(2) 聴音	22
(3) 新曲視唱	22
(4) 副科ピアノ	22
(5) 初見視奏	22
(6) 音楽又は舞踊の実技	22
(7) 初見視唱	22
III 入験問題例	23

音楽学部アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー

沖縄県立芸術大学音楽学部では、沖縄の地で育まれた個性の美である伝統芸能はもとより、西洋・東洋にわたる芸術音楽を体系的に研究教授し、将来、実演家、教育者、研究者をはじめとして、音楽芸術分野において社会に貢献できる人材の養成をめざします。

豊かな表現力と高い技術力、そして理論的思考力を涵養し、それらを総合して現代社会に新たな価値をもたらすことのできる人材を育成します。

■ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

沖縄県立芸術大学音楽学部では、大学ディプロマ・ポリシーに基づき、以下に掲げる学修成果を修め、最終学年における卒業演奏又は卒業作品、卒業論文、卒業研究の提出を経て、所定の卒業単位を取得した学生に対し、学士（芸術）の学位を授与します。

- 1 音楽・芸能の各分野における専門的な知識と実演、創作等の技能を修得していること。
- 2 大学の学修で養った汎用的基礎能力を活かし、主体的に研究を継続し、それらを社会に発信できる能力を備えていること。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

音楽学部では、沖縄の地で育まれた伝統芸能とともに、世界の芸術音楽を体系的に教授し、将来、実演家・教育者・研究者ならびに広く音楽芸術分野に貢献できる人材の育成をめざします。

上記の人材を育成することを目標として、大学カリキュラム・ポリシーを基本に次のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

- 1 少人数による教育
- 2 専門教育の4年間にわたる段階的履修
- 3 専門分野の実技と理論における体系的・横断的な授業科目の編成
- 4 全学教育科目における芸術諸分野及び教養に関する教育
- 5 地域社会との連携を図り社会との関係を学ぶ科目の提供
- 6 学生の多様な関心に対応し学習できる選択科目の設定

学修成果の評価は、評価の観点を示した上で学習目標の達成度を基準に、演奏・演舞・作品・実践・レポート・筆記試験等により行います。

■アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

大学及び学部の教育理念に基づき、音楽学部では、専門分野における基礎的な知識・技術に加え、大学の学修に必要な基礎的学力と広い視野を備え、将来、伝統芸能の継承発展と新たな芸術創造に寄与できる人材を求めています。

【求める人材】

- 1 大学での学修に対する熱意をもち、音楽家、実演家、研究者又は教育者として活躍したい人
- 2 基礎的知識を基に音楽に対する視野を広げ、現代社会との関わりを意識している人
- 3 沖縄に関心があり、現代社会に向けて芸術創造の営みを発信する意欲ある人

【選抜試験の実施】

- 1 一般入試では、大学入試センター試験で国語及び外国語を受験科目を課するとともに、個別学力検査等では、専攻試験（実技検査、小論文等）、音楽に関する基礎能力検査（楽典、聴音、副科ピアノ等）を実施しています。
- 2 推薦入試では、専攻試験（実技検査、小論文、口述試験等）、音楽に関する基礎能力検査（楽典、聴音、視唱、副科ピアノ等）、および面接を課しています。
- 3 社会人入試では、専攻試験（実技検査、小論文、口述試験等）を課しています。

いずれの入試においても、学部及び専攻・コースのアドミッション・ポリシーを基に実施し、総合点に基づき合格者の選抜を行います。

募集人員

学 部	学 科	専 攻	コ ー ス	定員	募集人員				
					一般入試		推薦入試		社会人 入 試
					前期 日程	後期 日程	県内 枠	全国 枠	
音楽学部	音楽学科	音楽表現	声 楽	23	17	0	3	3	0
			ピ ア ノ						
			弦 楽						
			管 打 楽						
			作 曲 理 論						
		音楽文化	沖 縄 文 化	7	4	0	2	1	0
			音 楽 学						
		琉球芸能	琉球古典音楽	10	5	0	4	1	若干名
			琉球舞踊組踊						
		計			40	26	0	9	5

注 1. 推薦入試の手続き完了者が募集人員に満たない場合は、満たない分の募集人員を前期日程の募集人員に加える。

注 2. 推薦入試の県内、全国それぞれの枠で定員に満たなかった人員は他方の枠に算入することがある。

注 3. 社会人入試の募集人員は、一般入試の前期日程の募集人員に含む。

<一般入試>

I 一般入試

1 試験科目一覧

試験科目 専攻・ コース名		専 攻 試 験 (第 1 次試験)				音楽に関する基礎能力検査 (第 2 次試験)						
		実技 検査	コールユー・ブ ン ケン	初見 演技	小論文	楽典 (注 3)	聴音	新曲 視唱	副 科 ピアノ	初見 視奏	音楽又 は舞踊 の実技	初見 視唱
音 楽 表 現	声 楽	◎	◎			◎	○	○	◎			
	ピアノ	◎				◎	◎			◎		
	弦 楽	◎				◎	○	○	◎			
	管打楽	◎				◎	○	○	◎			
	作曲理論	◎ (口述試験含む)				◎	◎		◎			
音 楽 文 化	沖縄文化				◎ (口述試験含む)	◎					◎	
	音楽学				◎ (口述試験含む)	◎	○	○	◎			
琉 球 芸 能	琉球古典音楽	◎ (調弦含む)			※ (口述試験含む)	◎						
	琉球舞踊組踊	◎		◎	※ (口述試験含む)	○						○

- 注 1. ◎印は、受験者が必ず受験しなければならない科目。○印は、出願時に、いずれか 1 つの科目を選択する。※印は社会人入試のみ（但し音楽に関する基礎能力検査は受験しない）
- 注 2. 各専攻の個別学力検査等（実技検査を含む）については、第 1 次試験と第 2 次試験に分けて実施するが、第 2 次試験については、第 1 次試験合格者についてのみ実施する。
- 注 3. 沖縄文化コース及び琉球芸能専攻の楽典については、音楽表現専攻及び音楽学コースの楽典とは別問題とする。

2 出願方法

- (1) 声楽コース志願者は、次の中から 1 声種を選択し、出願すること。
ソプラノ、メゾソプラノ、アルト、カウンターテノール、テノール、バリトン、バス
- (2) 弦楽および管打楽コース志願者は、次の楽器の中から 1 種類を選択し、出願すること。
(弦 楽 器) ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス
(管打楽器) フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォーン、ホルン、
トランペット、テナートロンボーン、バストロンボーン、チューバ、打楽器
- (3) 琉球古典音楽コース志願者は、次の中から 1 種を選択し、出願すること。
歌三線、琉球箏曲

(4)弦楽コースのヴァイオリンを第1志望とする入学志願者は、第2志望としてヴィオラを受験することができる。その場合には、第1志望の試験科目の他に第2志望の実技検査を受検しなければならない。

3 併願について

音楽学部への出願は、志願する専攻・コース（声種・楽器）を1つに限るが、以下の表に示す限りにおいては併願が可能である。

【併願可能な専攻・コース】

第2志望 第1志望		音楽表現					音楽文化		琉球芸能	
		声 楽	ピアノ	弦 楽	管打楽	作曲理論	沖縄文化	音楽学	琉球 古典音楽	琉球 舞踊組踊
音楽表現	声 楽					○	○	○		
	ピアノ	○				○	○	○		
	弦 楽					○	○	○		
	管打楽					○	○	○		
	作曲理論	○					○	○		
音楽文化	沖縄文化							○	○	○
	音楽学	○					○			
琉球芸能	琉球古典音楽						○			○
	琉球舞踊組踊						○		○	

注：併願の場合には、第1志望の試験科目（専攻試験、音楽に関する基礎能力検査）に加えて、第2志望の専攻試験を受験しなければならない。

ただし、

- ①音楽学コースと沖縄文化コースを併願する場合は、音楽に関する基礎能力検査では音楽学コースの科目を受験すること。
- ②音楽表現専攻の各コースと沖縄文化コースを併願する場合は、音楽に関する基礎能力検査では、受験する音楽表現専攻各コースの試験科目を受験すること。
- ③琉球芸能専攻の各コースと沖縄文化コースを併願する場合は、音楽に関する基礎能力検査では、「楽典」を受験すること。
- ④第2志望で作曲理論コースを併願する場合は、音楽に関する基礎能力検査では作曲理論コースの試験科目を受験すること。（ピアノコースを除く）
- ⑤第2志望で琉球古典音楽コースを併願する場合は、音楽に関する基礎能力検査では琉球古典音楽コースの試験科目を受験すること。

4 試験内容および試験曲等

《専攻試験》

(1) 音楽表現専攻声楽コース

注意事項：課題曲、自由曲とも暗譜で歌うこと。歌詞は原語で歌うこと（ただし、曲によっては通例歌われている他の外国語で歌うことも可）。

伴奏者は本学で用意する。ただし、事前の伴奏合わせはない。

時間の都合により演奏の一部省略または中断を求めることがある。

<課題曲>

下記の課題曲 17 曲から任意の 3 曲を選択し、入学願書に記入すること。

提出した 3 曲の中から試験当日、受験者本人のくじ引きにより 1 曲を歌う。

<自由曲>

課題曲以外の任意の曲、ただし 5 分以内とする。歌詞は原語で歌うこと。

<コールユーブンゲン>

F.Wüllner : Chorübungen 全曲の中から、当日 1 曲を指定する。

移動ド、固定ド、のどちらで歌ってもよい。

課 題 曲

①	M.A.Cesti	Intorno all'idol mio	(c-moll, d-moll, e-moll, f-moll)
②	G.B.Pergolesi	Se tu m'ami	(es-moll, f-moll, g-moll)
③	A.Scarlatti	Se tu della mia morte	(e-moll, g-moll, f-moll)
④	A.Scarlatti	Già il sole dal Gange	(G-dur, As-dur, B-dur)
⑤	A.Scarlatti	Le violette	(F-dur, G-dur, B-dur, H-dur)
⑥	A.Scarlatti	Sento nel core	(d-moll, es-moll, f-moll, g-moll)
⑦	F.Gasparini	Lasciar d'amarti	(d-moll, f-moll, g-moll)
⑧	F.Durante	Vergin, tutto amor	(h-moll, c-moll, d-moll)
⑨	W.A.Mozart	Das Veilchen	(E-dur, G-dur)
⑩	F.Schubert	An die Musik	(B-dur, C-dur, D-dur)
⑪	F.Schubert	Frühlingsglaube	(F-dur, G-dur, As-dur)
⑫	R.Schumann	Die Lotosblume	(Des-dur, Es-dur, F-dur)
⑬	弘田龍太郎	浜千鳥	(C-dur, Es-dur)
⑭	瀧廉太郎	荒城の月	(c-moll, d-moll)
⑮	山田耕筰	かやの木山	(C-dur, D-dur)
⑯	平井康三郎	ゆりかご	(E-dur)
⑰	信時潔	北秋の	(Des-dur, D-dur)

* () 内の調は、本学が用意する伴奏用楽譜の調である。他の調で歌う場合は、希望の調の伴奏用楽譜を願書とともに提出すること。

*イタリア歌曲は外国版を使用する時は、伴奏用楽譜を提出すること。

(2) 音楽表現専攻ピアノコース

注意事項：課題曲は A,B,C の順に演奏し、すべて暗譜で演奏すること。

繰り返しは省略する。時間の都合により演奏の一部省略または中断を求めることがある。

下記の課題曲 A,B,C についてそれぞれ任意の曲を 1 曲選択し、入学願書に記入して届け出ること。

< 課題曲 A >

J.S.Bach：平均律クラヴィア曲集第 1 巻または第 2 巻より任意の 1 曲
(プレリュードとフーガ)

< 課題曲 B >

F.Chopin：練習曲 Op.10 または Op.25 より任意の 1 曲 (Op.10-3, Op.10-6, Op.25-7 を除く)

< 課題曲 C >

L.v.Beethoven：ピアノ・ソナタ (Op.2-1～Op.90) より任意の第 1 楽章
(Op.27-1, Op.27-2, Op.49-1, Op.49-2, Op.79 の 5 曲を除く)

(3) 音楽表現専攻弦楽コース

注意事項：すべて暗譜、無伴奏で演奏すること。記号による反復は行わない。
試験曲のうち、指定した版のある曲以外は、どの版を使用しても良い。
時間の都合により演奏の一部省略又は中断を求めることがある。

◆ヴァイオリン

<音階>

Carl Flesch : Scale system より任意の調一つを選択。

5 番（3 オクターヴの音階 Tempo は $J=80\sim100$ ）全部。

6 番（3 度の音階 Tempo は自由）冒頭 4 小節。

7 番（6 度の音階 Tempo は自由）冒頭 4 小節。

8 番（8 度の音階 Tempo は自由）冒頭 4 小節。

*フィンガリングは自由。

*スラー、リズムは C-dur に準じること。ただし重音のスラーは
一拍ずつのスラーで演奏すること。

<課題曲 A>

以下の練習曲、または、これらと同等程度以上の練習曲から任意の 1 曲を選択。

R.Kreutzer : 42 Etudes (Peters 版)

*No.1,3,5 を除く。リズムやスラーはオリジナルに準じること。

P.Rode : 24 Caprices

J.Dont : 24 Etudes and Caprices Op.35

<課題曲 B>

任意の協奏曲より第 1 楽章または最終楽章（カデンツァは除く。ただし、作曲者が曲中に著したもののについては演奏すること）。

注. ヴァイオリンを第 1 志望とする志願者はヴィオラを第 2 志望とすることができる。

その場合、第 2 志望の実技試験も受験しなければならない。ヴィオラ試験として第 1 志望と同じ「音階」、「課題曲 A」、「課題曲 B」をヴァイオリンで演奏すること。

◆ヴィオラ

<音階>

C-dur の音階。Tempo は♩=80 以上

フィンガリングは自由。ただしボーイングは譜例に従うこと。



<課題曲 A>

R.Kreutzer : 42 Etudes より任意の 1 曲（但しヴィオラ用の編曲）を選択。

<課題曲 B>

任意のヴィオラ協奏曲より第 1 楽章（カデンツァを除く）

◆チェロ

<課題曲 A>

Sebastian Lee : Melodische und progressive Etüden Opus31 (SCHOTT 版)

40 MELODIC STUDIES Opus31 (INTERNATIONAL 版)

より任意の 1 曲を選択。

<課題曲 B>

任意のチェロ協奏曲より第 1 楽章（カデンツァを除く）

◆コントラバス

<課題曲 A>

F.Simandl : 30 Etudes より任意の 1 曲を選択。

<課題曲 B>

任意のコントラバス協奏曲より第 1 楽章（カデンツァを除く）

(4) 音楽表現専攻管打楽コース

注意事項：無伴奏で演奏すること。暗譜でなくてもよい。

時間の都合により演奏の一部省略又は中断を求めることがある。

【木管楽器】

◆フルート

<音階>

全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調、アーティキュレーションは当日指定する。

譜例



<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① E.Koehler : 35 Exercises op.33 第2巻 (12 Medium Difficult Exercises) より No. 1, 5, 6, 8, 10, 12
の中から 1 曲を当日指定する。(Carl Fischer 版)
- ② W.A.Mozart : Concerto in D major K314 より 第 1 楽章 (カデンツァを除く、版は自由)

◆オーボエ

<音階>

全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調、アーティキュレーションは当日指定する。

譜例



<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① F.W.Ferling : 48 Etudes op.31 より No.1~No.6 の中から 1 曲を当日指定する。(版は自由)
- ② J.Haydn : Concerto in C major Hob.VIIg:C1 より 第 1 楽章 (カデンツァを除く、版は自由)

◆クラリネット

<音階>

R.Eichler : Scales for Clarinet 全長調の 1 番の中から演奏する。

調、アーティキュレーションは当日指定する。

(国立音楽大学教育出版部)

＜課題曲＞

次の①、②を演奏する。

- ① C.Rose : 32 Etudes より No.13～No.20 の中から 1 曲を当日指定する。(Leduc 版)
② C.M.v.Weber : Concertino für Klarinette und Orchester Es-dur op.26 J.109
(Breitkopf & Härtel 版)

◆ファゴット

＜音階＞

全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調、アーティキュレーションは当日指定する。

譜例



＜課題曲＞

次の①、②を演奏する。

- ① J.Weissenborn : Studies for Bassoon op.8 vol.2 より№.4,6,8,10,13,14の中から1曲を当日指定する。(版は自由、繰り返しなし)
- ② A.L.Vivaldi : Concerto in a minor F#7 RV497 より第1楽章 (Ricordi 版)

◆サクソフオーン

＜音階＞

全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調、アーティキュレーションは当日指定する。

譜例



＜課題曲＞

次の①、②を演奏する。

- ① F.W.Ferling : 48 Etudes pour tous les saxophones より No.5,6,11,12,17,18 の中から数曲を当日指定する。(Leduc 版)
- ② P.Creston : Sonata op.19 より第 1 楽章

【金管楽器】

(共通課題)

＜音階＞

全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調、アーティキュレーションは当日指定する。

譜例



◆ホルン

<音階>

金管楽器共通課題参照のこと

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① C.Kopprasch : 60 Studies Book1 より No. 3,13,15,16,19 の中から 1 曲を当日指定する。
(Carl Fischer 版、繰り返しなし)
- ② W.A.Mozart : Konzert für Horn und Orchester Nr.3 Es-dur KV 447 より第 1 楽章
(カデンツァを除く、Breitkopf&Härtel 版)

◆トランペット

<音階>

金管楽器共通課題参照のこと

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① C.Kopprasch : 60 Studies Book1 より No.8,10,12,15,19 の中から 1 曲を当日指定する。
(Carl Fischer 版、繰り返しなし)
- ② T.Charlier : Solo de Concours (Schott 版)

◆テナートロンボーン

<音階>

金管楽器共通課題参照のこと

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① C.Kopprasch : 60 Studies Book1 より No.5,6,7,8,9 の中から 1 曲を当日指定する。(版は自由、繰り返しなし)
- ② A.Guilman : Morceau Symphonique op.88 (版は自由)

◆バストロンボーン

<音階>

金管楽器共通課題参照のこと

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

- ① C.Kopprasch : 60 Studies Book1 より No.6,7,8,9 の中から 1 曲を当日指定する。
(1 オクターヴ下げて演奏する、版は自由、繰り返しなし)

② A.Guilmant : Morceau Symphonique op.88 (Reift 版)

※テナー用の原曲を完全 4 度低く移調したバス・トロンボーン用の編曲で演奏すること。

◆チューバ

<音階>

金管楽器共通課題参照のこと

<課題曲>

次の①、②を演奏する。

① C.Kopprasch : 60 Studies より No.3,10,14,15,19,20 の中から 1 曲を当日指定する。

(Robert King 版、繰り返しなし)

② J.S.Bach : Air and Bourrée (W.J.Bell 編曲 Carl Fischer 版)

※使用楽器は、B♭、C、F 管のいずれかとする。

◆打楽器

打楽器 (A)、打楽器 (B) のどちらかを選択し入学願書に記入して届け出ること。

打楽器 (B) で受験する者は課題曲②の記号と曲名を入学願書に記入すること。

打楽器 (A) 小太鼓

<音階>

マリンバで、全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調は当日指定する。

譜例



<小太鼓 基礎打ち>

二つ打ち、五つ打ち、七つ打ち、九つ打ちの中から当日指定する。

奏法は任意とする。(小太鼓を使用して演奏、響き線無し)

<課題曲> 次の①、②を演奏する。

① W.F.Ludwig : Collection Drum Solos より 18~19 ページの中から数曲を当日指定する。

(Ludwig Music Publishing 版)

② A.J.Cirone : Portraits in Rhythm 50 Studies for Snare drum より No.3,13,19,31 の中から数曲を当日指定する。(YMM 版)

打楽器 (B) マリンバ

<音階>

マリンバで、全長調の音階の中から譜例に従い演奏する。調は当日指定する。

譜例



<小太鼓 基礎打ち>

二つ打ち、五つ打ち、九つ打ちの中から当日指定する。

奏法は任意とする。(小太鼓を使用して演奏、響き線無し)

<課題曲> 次の①、②を演奏する。

① M.Goldenberg : Modern School for Xylophone, Marimba, Vibraphone 39 Etudes より V、XII、XV、XX から 1 曲を当日指定する。(Chappell & Co 版)

② J.S.Bach : Sonaten und Partiten für Violine Solo BWV1001-1006

イ、ロ、ハの中から任意の 1 曲を選択して演奏する。(版は自由)

イ : Sonata I より Fuga Allegro

ロ : Partita I より Tempo di Bourree

ハ : Partita III より Preludio

(5) 音楽表現専攻作曲理論コース

<作曲実技>

和声課題の実施 (所要時間 2 時間)。ソプラノ課題およびバス課題を四声体で実施する。

<口述試験>

実技試験で実施した和声課題に関する質疑を含め、音楽への意欲などを問う。

受験者自身の作曲又は編曲作品の楽譜 (無記名とすること) を持参し、質疑等を行う。

(6) 音楽文化専攻沖縄文化コース

＜小論文＞

次の課題図書に基づいて音楽に関わるテーマを出題し、論述を求める。(90 分)

岡田暁生『音楽と出会う 21 世紀的つきあい方』（世界思想社、2019）

※課題図書は当日必ず持参すること。

＜口述試験＞

小論文の内容及び課題図書に関する質疑等を行う。

※課題図書は当日必ず持参すること。

(7) 音楽文化専攻音楽学コース

＜小論文＞

次の課題図書に基づいて音楽に関わるテーマを出題し、論述を求める。(90 分)

岡田暁生『音楽と出会う 21 世紀的つきあい方』（世界思想社、2019）

※課題図書は当日必ず持参すること。

＜口述試験＞

小論文の内容及び課題図書に関する質疑等を行う。

※課題図書は当日必ず持参すること。

(8) 琉球芸能専攻琉球古典音楽コース

注意事項：課題曲、自由曲ともに暗譜で演奏すること。

◆歌三線

<調弦>

調子笛の音高に合わせて調弦すること。

<課題曲>

かぎやで風節、上り口説（１、２、３、８番）、秋の踊【道輪口説】（１、２、３、４番）

※上記３曲の中から１曲を選択し、入学願書に記入して届け出ること。

<自由曲>

二揚調子の古典曲または二揚調子の古典民謡から任意の曲を選択し、入学願書に記入して届け出ること。

◆琉球箏曲

<調弦>

あらかじめ調弦された巾、為、斗、十、九の音高をもとに本調子の調弦をすること。

<課題曲>

瀧落萱攪

<自由曲>

歌物の中から任意の１曲を選択し、入学願書に記入して届け出ること。

(9) 琉球芸能専攻琉球舞踊組踊コース

<課題曲>

かぎやで風、かせかけ

※上記２曲の中から１曲を選択し、入学願書に記入して届け出ること。

<自由曲>

琉球舞踊又は八重山古典舞踊の中から任意の１曲を選択し、入学願書に記入して届け出ること。

なお、地謡用音源は<課題曲><自由曲>ともに録音媒体（ＣＤのみ）を出願書類と一緒に提出すること。再生用機器等は大学側が準備する。

<初見演技>

試験当日に例示する古典女踊の基本的所作を模倣して実演する。

(10) 社会人入試（琉球芸能専攻）

<実技検査>

試験曲は一般入試と同様とする。

<小論文>

課題は試験当日に出題する。（90分）

<口述試験>

小論文についての口頭試問を行う。

《音楽に関する基礎能力検査》

(1) 楽典

筆記試験・・・音楽表現専攻、音楽学コース(30分)、沖縄文化コース、琉球芸能専攻(40分)

(2) 聴音

単旋律および四声体和声の聴音。

(3) 新曲視唱

単旋律の視唱。予見時間は1分30秒。

(4) 副科ピアノ

注意事項：暗譜で演奏すること。記号による反復は行わない。

時間の都合により演奏の中断を求めることがある。

下記の課題曲①～③の中から1曲を選択し、入学願書に記入して届けること。

音階および課題曲を演奏すること。

<音階>

ハノン教則本第39番より♯♭記号3つまでの長調または短調の音階から試験当日に指定された調を演奏する。Tempo ♩=80以上

長調は繰り返しなしで、カデンツをつけて終わる。

短調は和声的短音階を1回弾いた後、カデンツをつけずに続けて旋律的短音階を1回弾き、カデンツをつけて終わる。

<課題曲>

① J.S.バッハ：インヴェンションまたはシンフォニアより任意の1曲

② ハイドン、モーツァルトまたはベートーヴェン：ピアノソナタより任意の1つの楽章
(ベートーヴェンを選択する場合はOp.101～111は除く)ただし緩徐楽章は除く。

③ ツェルニー：30番練習曲 Op.849、40番練習曲 Op.299、50番練習曲 Op.740のいずれかより任意の1曲

(5) 初見視奏

簡易な曲の視奏。試験室入室前に4分程度の予見時間がある。

(6) 音楽又は舞踊の実技

音楽又は舞踊の実技の種目は問わない。

演奏時間は3分～5分程度とし、全体の持ち時間は準備も含めて6分以内とする。

(注意事項)

演奏は伴奏なしとする。

本学でピアノ、打楽器、マリンバは用意するが、それ以外の楽器は持参すること。ただし、コントラバスは本学で準備したものを使用してもよい。

舞踊に用いる録音媒体(CD等)は事前に再生について確認をした上で出願時に提出すること。

演舞可能なスペースは、4m(幅) × 4m(奥行き) × 2.5m(床から天井までの高さ)程度である。特別な演出等がある場合は事前に相談すること。

(7) 初見視唱

試験当日に提示する台本の唱え（組踊「執心鐘入」から抜粋）。

5 令和2年度一般入試個別学力検査等日程表

専攻・ コース 日程	音楽表現					音楽文化		琉球芸能	
	声楽	ピアノ	弦楽	管打楽	作曲理論	沖縄文化	音楽学	琉球 古典音楽	琉球 舞踊組踊
令和2年 2月25日 (火)	課題曲 自由曲 コルユープソグン			音階 課題曲	作曲実技	小論文	小論文		課題曲 自由曲 初見演技
2月26日 (水)		課題曲A 課題曲B 課題曲C	音階 課題曲		口述試験	口述試験	口述試験	調弦 課題曲 自由曲	
	一 次 発 表								
2月27日 (木)	楽典 聴音又は 新曲視唱	楽典 聴音	楽典 聴音又は新曲視唱		楽典 聴音	楽典	楽典 聴音又は 新曲視唱	楽典	楽典又は 初見視唱
	副科ピアノ	初見視奏	副科ピアノ			音楽又は 舞踊の実技	副科ピアノ	※小論文	
								※口述試験	

注1：この日程は予定であり、出願状況によって変わることがある。

注2：※印は社会人入試のみ（但し、楽典は受験しない）

＜推薦入試＞

Ⅱ 推薦入試

1 試験科目一覧

試験科目 専攻・ コース名		専 攻 試 験				音楽に関する基礎能力検査							面 接
		実技 検査	コールユー ブ・ソング	初見 演技	小論文	楽典 (注2)	聴音	新曲 視唱	副 科 ピアノ	初見 視奏	音楽又 は舞踊 の実技	初見 視唱	
音楽表現	声 楽	◎	◎			◎	○	○	◎				◎
	ピアノ	◎				◎	◎			◎			◎
	弦 楽	◎				◎	○	○	◎				◎
	管打楽	◎				◎	○	○	◎				◎
	作曲理論 (口述試験含む)	◎					○	○	◎				◎
音楽文化	沖縄文化				◎ (口述試験含む)	◎					◎		
	音楽学				◎ (口述試験含む)			◎	◎				
琉球芸能	琉球古典 音楽 (調弦含む)	◎				◎							
	琉球舞踊 組踊	◎		◎		○						○	

注1. ◎印は、受験者が必ず受験しなければならない科目。○印は、出願時に、いずれか1つの科目を選択する。

注2. 沖縄文化コース及び琉球芸能専攻の楽典については、音楽表現専攻の楽典とは別問題とする。

2 出願方法

(1) 声楽コース志願者は、次の中から1声種を選択し、出願すること。

ソプラノ、メゾソプラノ、アルト、カウンターテノール、テノール、バリトン、バス

(2) 弦楽および管打楽コース志願者は、次の楽器の中から1種類を選択し、出願すること。

(弦 楽 器) ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス

(管打楽器) フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン、サクソフォーン、
トランペット、テナー・ロンボーン、バス・ロンボーン、チューバ、打楽器

(3) 琉球古典音楽コース志願者は、次の中から1種を選択し、出願すること。

歌三線、琉球箏曲

3 試験内容および試験曲等

《専攻試験》

(1) 音楽表現専攻声乐コース

一般入試に同じ

(2) 音楽表現専攻ピアノコース

一般入試の課題曲 A,B,C に同じ

(3) 音楽表現専攻弦楽コース

注意事項：すべて暗譜、無伴奏で演奏すること。記号による反復は行わない。
時間の都合により演奏の一部省略または中断を求めることがある。

◆ヴァイオリン

<音階>

一般入試に同じ

<課題曲>

任意の協奏曲より第1楽章または最終楽章（カデンツァは除く。ただし、作曲者が曲中に著したものについては演奏すること。）

◆ヴィオラ

<音階>

一般入試に同じ

<課題曲>

任意のヴィオラ協奏曲より第1楽章（カデンツァを除く）

◆チェロ

<課題曲A>

一般入試に同じ

<課題曲B>

任意のチェロ協奏曲より第1楽章（カデンツァを除く）

◆コントラバス

<課題曲A>

一般入試に同じ

<課題曲B>

任意のコントラバス協奏曲より第1楽章（カデンツァを除く）

(4) 音楽表現専攻管打楽コース

一般入試に同じ

(5) 音楽表現専攻作曲理論コース

<口述試験>

受験者自身の作曲又は編曲作品の楽譜（無記名とすること）を持参し、質疑等を行う。

※作品は試験当日に持参すること。

(6) 音楽文化専攻沖縄文化コース

<小論文>

テーマ「現代の社会と音楽（舞踊）との関わりについて論じなさい」

原稿用紙（400字詰め）5枚程度とし、手書きであること。

※小論文は、出願書類と一緒に提出すること。

<口述試験>

小論文の内容等を問う。

提出した小論文のコピーを試験当日に持参すること。

(7) 音楽文化専攻音楽学コース

<小論文>

テーマ「現代の社会と音楽（舞踊）との関わりについて論じなさい」

原稿用紙（400字詰め）5枚程度とし、手書きであること。

※小論文は、出願書類と一緒に提出すること。

<口述試験>

小論文の内容等を問う。

提出した小論文のコピーを試験当日に持参すること。

(8) 琉球芸能専攻琉球古典音楽コース

一般入試に同じ

(9) 琉球芸能専攻琉球舞踊組踊コース

一般入試に同じ

《音楽に関する基礎能力検査》

(1) 楽典

筆記試験・・・音楽表現専攻（30 分）、沖縄文化コース、琉球芸能専攻（40 分）

(2) 聴音

一般入試に同じ

(3) 新曲視唱

一般入試に同じ

(4) 副科ピアノ

注意事項：暗譜で演奏すること。記号による反復は行わない。

時間の都合により演奏の中断を求めることがある。

下記①～③の中から 1 曲を選び演奏する。

① J.S.バッハ：インヴェンションまたはシンフォニアより任意の 1 曲

② ハイドン、モーツァルトまたはベートーヴェン：ピアノソナタより任意の 1 つの楽章
（ベートーヴェンを選択する場合は Op.101～111 は除く）ただし緩徐楽章は除く。

③ツェルニー：30 番練習曲 Op.849、40 番練習曲 Op.299、50 番練習曲 Op.740 のいずれかより任意の 1 曲

(5) 初見視奏

一般入試に同じ

(6) 音楽又は舞踊の実技

一般入試に同じ

(7) 初見視唱

一般入試に同じ

＜入試問題例＞

Ⅲ 入試問題例

《試験科目 目次》

* 一般入試

楽典（音楽表現専攻、音楽文化専攻音楽学コース）	・ ・ ・ ・ ・	25
楽典（音楽文化専攻沖縄文化コース、琉球芸能専攻）	・ ・ ・ ・ ・	26
聴音	・ ・ ・ ・ ・	27
新曲視唱	・ ・ ・ ・ ・	28
初見視奏	・ ・ ・ ・ ・	29
作曲実技	・ ・ ・ ・ ・	30
小論文（音楽文化専攻）	・ ・ ・ ・ ・	31
小論文（琉球芸能専攻社会人入試）	・ ・ ・ ・ ・	32
初見視唱	・ ・ ・ ・ ・	33

* 推薦入試

楽典（音楽表現専攻(※注)）	・ ・ ・ ・ ・	34
楽典（音楽文化専攻沖縄文化コース、琉球芸能専攻）	・ ・ ・ ・ ・	35
聴音	・ ・ ・ ・ ・	36
初見視奏	・ ・ ・ ・ ・	37
新曲視唱	・ ・ ・ ・ ・	38
初見視唱	・ ・ ・ ・ ・	39

※注：作曲理論コースを除く

科目名: 楽典 専攻名・コース名: 音楽表現専攻、音楽学コース

1. 右側の楽譜はブラームス作曲《交響曲第1番》第4楽章からの抜粋です。以下の設問に答えなさい。

1. アとイの楽語の意味を答えなさい。
2. ①～④の音程を例にならって答えなさい (複音程は単音程に直すこと)。
3. あ～えの和音の種類を例にならって下の欄から選び、記号 a～h で答えなさい。

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| a. 長三和音 | b. 短三和音 | c. 減三和音 | d. 増三和音 |
| e. 属七の和音 | f. 減七の和音 | g. 長七の和音 | h. 短七の和音 |

4. 1) A～C 各部分を支配する調をドイツ語で答えなさい。
- 2) A～C 各調の主要三和音を解答用紙に指定された譜表に全音符で書き、和音記号も下に書きなさい。(適宜、臨時記号を用いなさい)
5. 次の楽譜は、D 部分矢印からの旋律です。この旋律が実音になるように、ホルン(*F管)で演奏する場合の記譜音を臨時記号を使って書きなさい。



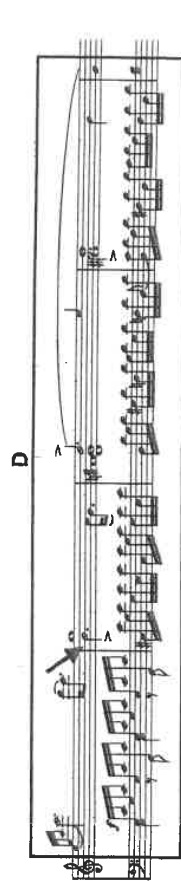
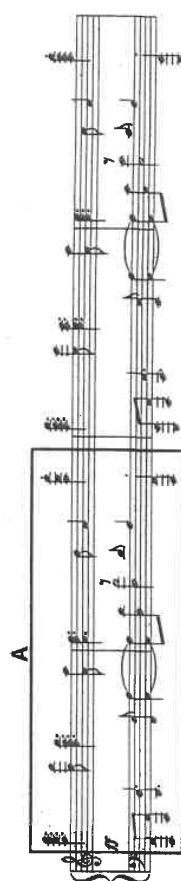
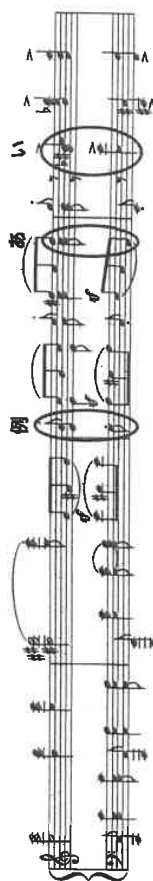
*F管で記譜音を演奏すると、実音は完全5度下になります。

II. 次に示す楽語の正式な綴りとその意味を答えなさい。

- ① *ten.* ② *marc.* ③ *ad lib.* ④ *m.d.*

ア 【Allegro non troppo, ma con brio】

イ 【animato】



楽典

I. 次の楽譜は、フォスター作曲「主人は冷たい土の中に」の旋律である。以下の問いに答えなさい。

- (1) 楽譜中の あ ～ え が示す音程は何度か。次の語群から選びなさい。
完全 1 度、長 2 度、短 3 度、完全 3 度、完全 4 度、完全 5 度、短 7 度、完全 8 度
- (2) この曲は何調か。次の語群から選びなさい。
ハ長調、ニ長調、ホ長調、ヘ長調、ト長調
- (3) この曲は何拍子か。次の語群から選びなさい。
4 分の 2 拍子、4 分の 3 拍子、4 分の 4 拍子、8 分の 6 拍子、8 分の 3 拍子
- (4) 楽譜中の か ～ き が示す記号の読みと意味を書きなさい。
- (5) 楽譜中の く ～ こ の小節にふさわしい和音は次のアイウのどれか。また、そのコードネームを次の語群から選びなさい。
和音
ア イ ウ
コードネーム: C、F、G
- (6) この楽譜を ♩82 のテンポで演奏すると、所要時間はどれほどか。計算式を書いたうえで所要時間を答えなさい。小数点以下は四捨五入し、速度の変化は無視すること。
- (7) この楽譜の最初の行(4小節)を全音高い調に移調して、解答用紙の五線に書きなさい。

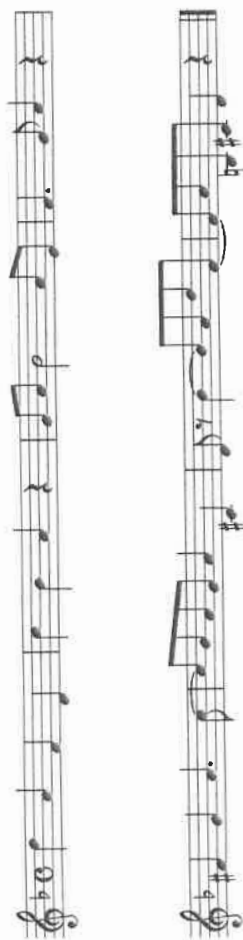
II. 次の問いに答えなさい。

- (1) 解答用紙の五線にト音記号を書き入れたうえで、次の音階を全音符で、調号を使わずに書きなさい。
① ニ長調 ② ニ短調 (和声的短音階)
- (2) D 音をもとにしたドミナント・セブンス・コードについて、D 音以外の三つの音名を答えなさい。
- (3) オーケストラに使われる木管楽器のうち、クラリネット以外の楽器名を 3 つ書きなさい。

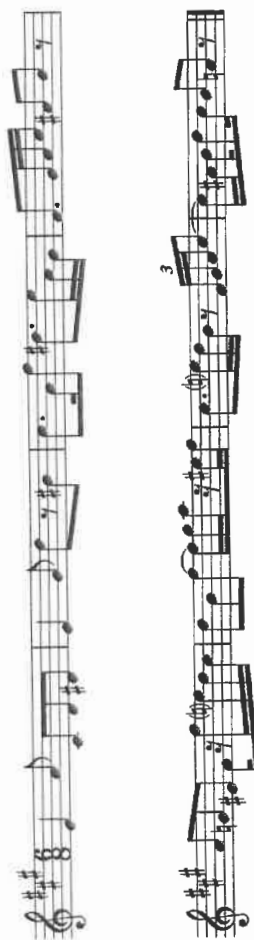
III. 次の問いの中から、5 つを選んで答えなさい。なお、選んだ問いの番号を解答用紙の所定の欄に書くこと。

- (1) イ短調の属調は何調か。
- (2) 次の楽語のうち、音の強弱を指示する語を 1 つ選んで書きなさい。
Moderato *decrescendo* D.C. *staccato*
- (3) 日本の作曲家・武満徹が作曲した作品名を次の語群から選びなさい。
ノヴェンバー・ステップス、映画音楽「戦場のメリークリスマス」、箏曲「春の海」
- (4) 次の楽器名のうち、日本の雅楽の楽器として演奏されているものを 2 つ選びなさい。
三味線、楽琵琶、胡弓、篠笛、尺八、笙、拍子木
- (5) オペラを上演するには、音楽家以外にも数多くの舞台公演を支えるスタッフが必要である。どのような係の人々が関わっているか。下記の例以外に必要な役割を 2 つ書きなさい。
例:「舞台監督」「衣裳係」
- (6) 琉球箏曲の本調子の調弦のとき、三線の女弦(工)の音高と合わせる箏の弦の名を答えなさい。
- (7) 三線の二揚調子において、男弦を C (ハ音)の高さに合わせると、中弦の高さはどの音名にあたるか答えなさい。
- (8) 三線の本調子において、中弦と女弦の音程は何度か。I (1)の語群から選びなさい。
- (9) 沖縄の伝統芸能のうち、「執心鑑入」「二重歌謡」などの演目で知られる芸能の名称を答えなさい。
- (10) 《かぎやで風節》の歌詞を歌われる通りにすべて書きなさい。解答欄に書ききれない歌詞は余白に書くこと。

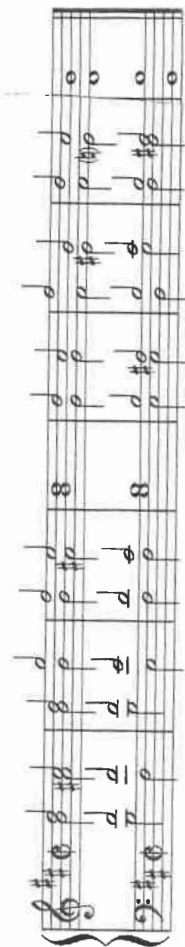
単旋律 d-moll 4分の4拍子 8小節



単旋律 A-dur 8分の6拍子 8小節



四声体和声 h-moll 2分の2拍子 8小節



聴音

① 旋律 d-moll 4分の4拍子 8小節

実施方法

主和音と拍子

通奏1回

前半4小節、3回

通奏1回

後半4小節、3回

通奏1回

② 旋律 A-dur 8分の6拍子 8小節

実施方法

主和音と拍子

通奏1回

前半3回

通奏1回

後半3回

通奏1回

③ 四声体和声 h-moll 2分の2拍子 8小節

実施方法

主和音と拍子

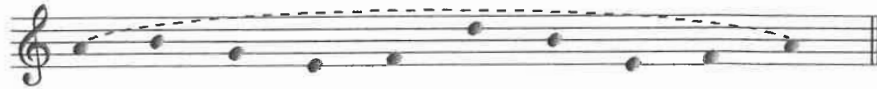
通奏7回

平成31年度沖縄県立芸術大学音楽学部一般入学試験

科目名： 新曲視唱

専攻・コース名： 声楽・弦楽・管打楽・音楽学コース

1. 次のフレーズを**音程を付けずに一息で**素早く読みなさい。



2. 次の旋律の**調の主和音**と**曲の開始音**をピアノで弾いてから予見しなさい。（制限時間：1分30秒）
3. 予見し終わったら、再び**主和音**と**曲の開始音**をピアノで弾き確かめてから歌いなさい。



平成31年度沖縄県立芸術大学音楽学部一般入学試験

科目名：初見視奏(ピアノコース)

予見時間：4分

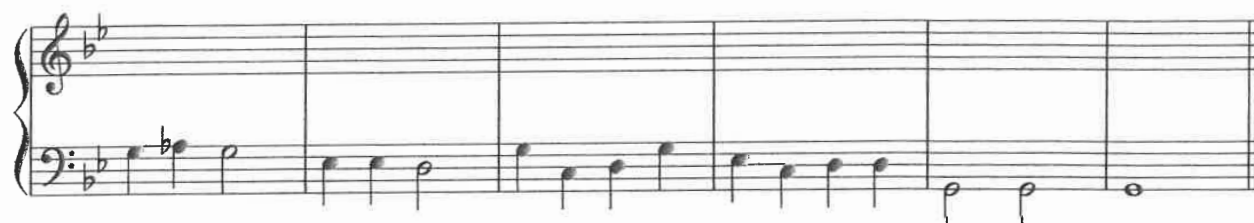
Moderato poco rubato

sempre legato

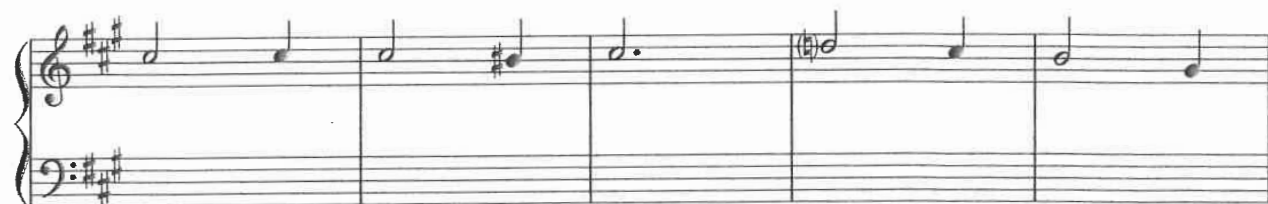
科目名：作曲実技

次の課題を四声体で実施しなさい。

1. バス課題



2. ソプラノ課題



平成三一年度沖縄県立芸術大学音楽学部一般入学試験

科目名： 小論文 専攻名・コース名： 音楽文化専攻 沖縄文化コース・音楽学コース

課題図書の中で、著者の野村誠は自身が行ってきた様々な音楽活動を紹介しています。

- ① それらの音楽活動の中からひとつを選び、その概要を二〇〇～二〇〇字程度で説明しなさい。
- ② ①にまとめた音楽活動の内容や著者の考えを踏まえた上で、「音楽をつくる」ということについてあなたはどのように考えますか。八〇〇字程度で述べなさい。

課題図書 野村誠 『音楽の未来を作曲する』 晶文社

小論文(琉球芸能専攻・社会人入試)

次の文を読んで、以下の問題に答えなさい。

「音楽は世界共通の言語である」。

皆さんはこれに同意するだろうか。あるミュージシャンのウェブサイトにも、同様のことが書かれていた。彼はヨーロッパから日本に移住し、当初、言葉も習慣も違う国で戸惑うことが多かったという。そんな彼を慰めたのは音楽だった。音楽を通じて人間は心を通わすことができる。「音楽は世界共通の言語である」という彼の言葉は、こうした経験から出てきた。しかし、民族音楽学者はこう考える。「彼が寂しい思いをしたときに聴いたのは、どんな音楽だったのだろうか。クラシックだろうか、ポップスだろうか、それとも、ロックだろうか。もし彼がいきなり長唄を聴いたら、慰められただろうか。具体的に音楽を思い浮かべてみると、「世界共通」であるといえそうなのは、一握りの音楽だけで、それ以外の大多数の音楽は、そのときの「音楽」には数えられていないのではないか。

私たちがよく耳にするのは、日本や欧米の音楽産業にのったごく一部の音楽にすぎない。それに対して、民族音楽学者は、世界には自分たちの音楽とは異なる様々な音楽が存在することを明らかにしてきた。だから「音楽は世界共通ではない」と主張する。

一方で、それぞれ表現は違うけれども、世界中の人々はみな音楽をもっているという点において、音楽は世界共通であるということもできる。民族音楽学者が、世界の多様な音楽を研究してきたのは、それらひとつひとつの音楽を理解したいと考えてきたからだ。世界の人々が音楽を生みだし、伝えてきたのには、それなりの理由があるはずだ。聴き慣れない音楽は、必ずしも耳に心地よくないかもしれない。その表現を成り立たせるものを理解するには、それなりの努力と時間を要する。それでも、それを少しでも理解できたとき、私たちは自身の音楽に対する見方も広がっていく。

近年、無形文化遺産保護への関心が高まっている。その背景には、消滅の危機にある文化を後世に伝えていきたいという思いがある。ユネスコによる無形文化遺産保護条約の採択に表れているのは、こうした努力を国際社会の協力の下で実現させていくとする意志である。個々の文化遺産は、それらを担ってきた個々の集団の努力で伝えていくべきものだと考えられるかもしれない。しかし、社会の急激な変化は、個々の集団の努力で押しとどめることはできない。文化の多様性が失われ、画一化していくことを防ぐために、国際社会の協力が必要とされているのである。

ユネスコには、人類共有の遺産として文化遺産を守っていくという考え方がある。これは、特定の遺産を世界共通のものとするよりは、多様性を人類の遺産と考えることにつながっている。音楽を例に考えれば、特定の音楽だけを大切にするのはなく、世界の多様な音楽のひとつひとつを大切にすること、さらに、あるひとつの音楽だけで世界の人々がつながるのではなく、たくさんの音楽により人々がつながること、それが無形文化遺産の保護のめざしているものだといえるだろう。

福岡正太「無形文化遺産としての音楽」(監修者 徳丸吉彦、編者 増野亜子『民族音楽学12の視点』音楽之友社、2016年、pp.74-75)

問1. 本文を200字以内で要約しなさい。

問2. 無形文化遺産の役割とはなんだろうと思うか。筆者の意見を参考にしてあなたの考えを800字以内で述べなさい。

組踊「執心鐘入」

①女詞

たるよ夜深^{よるか}さに

宿^{やど}からんでいふすや、

親^{おや}の留守^{るす}やれば、

自由^{じゆう}もならぬ。

②若松詞

露^{つゆ}でやんす花^{はな}に

宿^{やど}かゆる浮世^{うきよ}、

慈悲^{じひ}よ御情^{おなさけ}に

からちたばうれ。

③若松詞

悪縁^{あくえん}や袖^{そで}に

むすばはんぼからひ、

わ身^みや首里^{みや}みやだいいり

やてど行き^いゆる。

④小僧（一）詞

昔^{むかし}から寺^{てら}や

女^{をんな}禁止^{きじ}さらめ、

いきやる事^{こと}あとて

とまいてきちやが。

出典『校註 琉球戯曲集』（復刻版）伊波普猷 一九九二年 榕樹社

※一部、異体字を改めた。

科目名：楽典 専攻名・コース名：音楽文化専攻沖縄文化コース、琉球芸能専攻

1. 次の楽譜は、作曲者不明《アメーミング・グレイス》の旋律である。以下の問いに答えなさい。

あ き い く

p dolce *mf*

poco rit. a tempo

1. 2.

- (1) この曲は、何拍子か。次の中から選びなさい。
8分の6拍子 4分の4拍子 4分の3拍子 2分の3拍子 8分の2拍子
- (2) この曲は、何調か。次の中から選びなさい。
ホ長調 ハ長調 ホ短調 イ長調
- (3) あ、い の音程はそれぞれ何度か。解答用紙の例にならって答えなさい。
- (4) か、き、く の記号の読み（名称）と意味を答えなさい。
- (5) この曲を反復記号の通りに演奏すると、全部で何小節になるか。
- (6) この曲を $J=66$ の速度で演奏すると、全曲演奏するにはおよそどのくらいの時間がかかるか。計算式を書いた上で、所要時間を答えなさい。（演奏上の速度の変化は無視し、小数点以下は四捨五入すること）
- (7) この楽譜の3段目（9小節目から13小節目まで）を全音低い調に移調し、解答用紙の五線に書きなさい。その際、ト音記号と調号を書き入れること。

2. 次の問いに答えなさい。

(1) 解答用紙の五線に、次の音階の上行形を、全音符で臨時記号を使って書きなさい。
ア 変ロ長調 イ ホ短調（和声的短音階）

(2) 解答用紙の五線に、次のコードネームが示す和音を、全音符で臨時記号を使って書きなさい。その際、ト音記号を書き入れること。
ア F イ G $\flat$ ウ Cm

3. 次の9つの問いの中から、5つを選んで答えなさい。なお、選んだ問いの番号を解答用紙の（ ）に書くこと。

(1) イ短調の平行調は何調か。

(2) 次の中から、複合拍子を選んで答えなさい。

2分の2拍子 8分の6拍子 4分の3拍子 4分の2拍子

(3) 次の中から、弦楽器を3つ選んで答えなさい。

フルート ヴィオラ 三味線 ティンパニ ハープ 尺八

(4) 次のコードネームが示す和音の中から、ハ長調の主要三和音でない和音を一つ選んで答えなさい。

G Am C F

(5) 次の中から、沖縄音階（琉球音階）と呼ばれる音階を一つ選び、記号で答えなさい。

ア イ ウ

(6) 二線の二揚調子において、中絃を G（ト音）とすると、女絃はどの高さの音になるか。音名で答えなさい。

(7) 琉球争曲の本調子において、四の絃と五の絃の音程は何度か。I (3)の例にならって答えなさい。

(8) 琉球古典舞踊で女踊りと呼ばれる演目名を一つ答えなさい。

(9) 次の中から、歌謡（琉歌）の後半部分（下句）を繰り返して演奏する曲を一つ選んで答えなさい。

《干瀬節》 《恩納節》 《伊野波節》 《かぎやで風節》

平成31年度沖縄県立芸術大学音楽学部推薦入学試験

科目名： 初見視奏(ピアノコース)

予見時間：4分

Allegro moderato con brio

新曲視唱

- ①次の曲の調の主和音をピアノで弾き、予見しなさい。(予見時間は1分30秒)
- ②予見が終わったら、再度、主和音を弾いてから、この曲の和声短音階を歌いなさい。
- ③ピアノで主和音を確認した後、開始音を弾いてから歌い始めなさい。

Moderato

The musical score is written in 2/4 time and B-flat major. It consists of three staves of music. The first staff begins with a mezzo-piano (*mp*) dynamic. The second staff starts at measure 6. The third staff starts at measure 11 and includes a forte (*f*) dynamic and a triplet of eighth notes. The piece ends with a piano (*p*) dynamic.

組踊「執心鐘入」

①若松詞

はつかよ
廿日夜のくらさ
みち
道まよてをたん。
おなさけ やど
御情の宿に
しばしやすま。

②女詞

うま
をところ生れても
こひ
恋しらぬものや
たま
玉のさかづきの
そこ み
底も見らぬ。

③若松詞

おんならま
女生れても
きりし
義理知らぬものや
よ なか
これど世の中の
ちこく
地獄だいもの。

④小僧（一）詞

ざす
やかれよも座主が
わかしら
かじめたる若衆
るす
留守ならば互に
かた
語る嬉しや。

出典『校註 琉球戯曲集』（復刻版）伊波普猷 一九九二年 榕樹社

※一部、異体字を改めた。

令和2年度

試 験 曲

音楽学部個別学力検査等

令和元年7月 発行



〒903-8602

沖縄県那覇市首里当蔵町1丁目4番地

電話 098-882-5058 (教務学生課)

<http://www.okigei.ac.jp>

